



日米交流事業【山口県大島郡周防大島町】

海上自衛隊/米海兵隊岩国航空基地
フレンドシップデー 2023



日米共催での基地開放イベント、海上自衛隊/米海兵隊 岩国航空基地フレンドシップデーが 2023年4月15日(土)に開催される予定です。フレンドシップデーは、1973年に初めてその名を冠してから50年、今回で第44回目のイベントとなります。海上自衛隊第31航空群と米軍岩国基地とで、イベントを予定しています。

目 次

- 2 日米交流事業「日米子供キックターゲット」(周防大島町)
- 3 第33回 防衛問題セミナー(広島県呉市)
- 4 岩国市漁業協同組合 藤生荷さばき場竣工式(岩国市)
- 5 令和4年度 中国四国防衛局地方審議会
- 6 令和4年版 防衛白書の地方公共団体への説明
第79回 岩国飛行場藻場・干潟回復調査研究委員会
- 7 原村演習場における米軍単独訓練の実施
- 8 令和3年度 建造計画 護衛艦・支援船 起工式ほか
- 9 令和4年度 在日米軍従業員永年勤続者表彰
- 10 中国四国防衛局長 感謝状贈呈
令和4年度 中国四国防衛局永年勤続者表彰
- 11 中国四国防衛局による広報活動の紹介
- 12 米海兵隊岩国航空基地の紹介(in Autumn)
- 14 中国四国防衛局 初任者等現地研修(呉・江田島、岩国地区)
- 18 広島大学教授による局職員への講義
- 19 玉野防衛事務所日記
- 20 高松防衛事務所の紹介



日米交流事業「日米子供キックターゲット」(山口県周防大島町)

令和4年11月12日、山口県大島郡周防大島町にある周防大島町陸上競技場において、中国四国防衛局主催による日米交流事業「日米子供キックターゲット」を、周防大島町、米海兵隊岩国航空基地共催で開催しました。



今給黎局長 挨拶



藤本 周防大島町長 挨拶



ラスノック司令官 挨拶

当日は天候にも恵まれ、周防大島町、岩国市、米海兵隊岩国航空基地からサッカーチームなどに所属する児童約40名が参加しました。

参加者はくじ引きで5つの日米混合チームに分かれ、準備体操、練習を行った後、本番ではチームで協力してゲームを競い合いました。ボールが的に当たると拍手や歓声上がるなど、子供たちは日米の垣根を越えてキックターゲットを楽しんでいました。



「日米子供キックターゲット」は約3年ぶりの開催となりますが、今後も地域の皆様の協力を得て、在日米軍との相互理解を深めるための交流施策を実施してまいります。



第33回 防衛問題セミナー開催(広島県呉市)

令和4年11月28日、広島県呉市の新日本造機ホールにおいて、当局主催による防衛問題セミナーを開催しました。

本セミナーは、防衛政策全般に対する国民の皆様への理解促進のための施策として、平成19年から地方防衛局主催で開催しているものです。呉市での開催は5回目となり、当日は約220名の方々が来場されました。



河野 克俊 氏
(前統合幕僚長)



兼原 信克 氏
同志社大学特別客員教授
(元内閣官房副長官補)



渡部 恒雄 氏
笹川平和財団安全保障研究グループ
上席研究員

今回は「国際情勢と日本の安全保障」を全体のテーマとして、第1部では前統合幕僚長の河野克俊氏より「今後の日本の安全保障とその課題」について、第2部では同志社大学特別客員教授(元内閣官房副長官補)の兼原信克氏より「ウクライナ戦争と日本の国防」について、第3部では笹川平和財団安全保障研究グループ上席研究員の渡部恒雄氏より「大國間競争時代のアメリカの戦略」についてご講演いただきました。



本セミナーに来場された方々からは、「日本の置かれている状況や世界の脅威が再認識できた」「日本の防衛、自衛の重要性を認識できた」など多くの感想が寄せられました。



岩国市漁業協同組合 藤生荷さばき場竣工式(山口県岩国市)

令和4年11月9日、山口県岩国市で藤生荷さばき場^{ふじゅう}(愛称「エフベース」)の竣工式がとり行われ、松浦岩国市漁業協同組合長をはじめ、福田岩国市長、ラスノック米海兵隊岩国航空基地司令官、今給黎中国四国防衛局長、岩国市漁業協同組合関係者を含む約50人が出席しました。



福田市長 祝辞



松浦岩国市漁協組合長 挨拶

本施設の整備には、防衛省の補助金制度(民生安定施設整備事業)が活用されており、岩国市が補助事業者、岩国市漁業協同組合が間接補助事業者(事業主体)となり、総事業費約6億円(うち防衛省補助金約4億円)をかけ、岩国市の藤生港に令和2年度から整備を進めてきました。

鉄骨造4階建ての「エフベース」は、活魚水槽、冷蔵庫、冷凍庫、そして製氷機のほか、一次加工室や専用の販売スペースも併設した施設として生まれ変わりました。

衛生的かつ効率的な選別により、付加価値がより高い水産物の出荷等が可能となり、漁業の振興や事業経営の安定に資することが期待されます。



施設全景

当局としては、今後とも、防衛施設周辺の住民の方々の生活環境の改善や事業経営の安定のための各種施策の実施に取り組んでまいります。



施設内観(左:活魚水槽)



一次加工室

●当局事業担当者のコメント

新しく生まれ変わった藤生荷さばき場から出荷される質の高い魚介類が、山口県内はもとより全国の料亭や家庭の食卓に並ぶことを楽しみにしています



令和4年度 中国四国防衛施設地方審議会

令和4年10月19日、広島県広島市の広島合同庁舎において、中国四国防衛施設地方審議会が開催され、小田 宏史 会長（もみじ銀行取締役頭取）をはじめとする8名の委員と今給黎中国四国防衛局長ほか担当職員が出席しました。



審議会において、今給黎局長から令和4年版防衛白書の概要について、田實企画部長から旧軍未登記財産の処理について説明を行い、これに対して委員から貴重なご意見をいただきました。

試験棟での大型水槽見学 (岩国海洋環境試験評価サテライト)

その後、委員は、山口県岩国市に所在する「防衛装備庁艦艇装備研究所岩国海洋環境試験評価サテライト」を訪問し、概況説明や施設見学を通じて、防衛政策・防衛行政について理解を深めました。





令和4年版 防衛白書の地方公共団体への説明

中国四国防衛局では、地域の皆様に防衛政策についての御理解を深めて頂く一助となるよう、自衛隊地方協力本部等と連携し、当局管内の各県知事や市長等に防衛白書の内容について毎年説明を行っています。



伊原木 岡山県知事への説明（10月13日）



飯泉 徳島県知事への説明（11月11日）



池田 香川県知事への説明（11月17日）



湯崎 広島県知事への説明（11月18日）



第79回 岩国飛行場藻場・干潟回復調査研究委員会

令和4年11月11日、広島市内のホテルにて、第79回岩国飛行場藻場・干潟回復調査研究委員会を岡田委員長（広島大学名誉教授）ほか2名の委員の出席を得て開催しました。

今回の委員会では、令和4年1月から同年6月までの周辺藻場・干潟における環境調査及び藻場・干潟回復モニタリング調査の結果が報告されるとともに、令和3年度の藻場・干潟回復事業の進捗状況及びモニタリング調査結果について審議され、承認を得ました。

●岩国飛行場藻場・干潟回復調査研究委員会

→本委員会は、岩国飛行場滑走路移設事業に伴い消滅した藻場・干潟を回復させることについて、専門的な知識を持つ学識経験者から必要な検討、指導や助言を得るために、平成8年9月に設置されました。



委員会開催状況



原村演習場における米軍単独訓練の実施

令和4年10月15日から21日までの7日間、広島県東広島市に所在する陸上自衛隊原村演習場において、米海兵隊岩国航空基地所属の後方支援部隊による単独訓練が実施されました。

本訓練は、平成3年8月に初めて実施されて以降、今回が51回目であり、演習場区域における一般訓練及び基本射場における小火器射撃訓練がそれぞれ実施されました。

米海兵隊岩国航空基地

原村演習場



一般訓練（障害物訓練）

本訓練実施にあたり、当局はこれまでと同様、事前に訓練実施期間及び内容等を関係自治体等へ通知したほか、訓練期間中においては、当局職員を連絡員として現地に派遣し、訓練状況を把握するなどの対応を行いました。

訓練期間中、当局の今給黎中国四国防衛局長が演習場を訪問し、米側の訓練責任者の案内の下、訓練の状況を視察しました。



射撃訓練



今給黎局長による訓練視察

訓練部隊は、最大限の安全確保等を行い、訓練を無事に終えました。

また、訓練終了後には、演習場周辺の一般道路を汚さないよう、使用した車両の洗車を徹底して行うなど細心の注意を払い、同部隊は岩国航空基地に帰還しました。



令和3年度 建造計画 護衛艦・支援船 起工式

令和4年8月30日、岡山県玉野市に所在する三菱重工業マリタイムシステムズ株式会社玉野本社工場（旧社名 三井E & S造船株式会社）において、**令和3年度建造計画護衛艦「03FFM」の起工式**がとり行われました。

本式典には、三菱重工業株式会社防衛宇宙セグメント艦艇・特殊機械事業部の三木副事業部長、三菱重工業マリタイムシステムズ株式会社調枝社長以下関係者のほか、玉野防衛事務所から瀧永2ほか所員が出席しました。



起工式の様子



鋼材にサインを施す様子（玉野防衛事務所 瀧永2佐）

今回建造される03FFMは、同工場にて本年3月22日に就役した護衛艦「くまの」の同型艦になり、三菱重工業マリタイムシステムズ株式会社としては、昨年10月に「旧 三井E & S造船株式会社」から現会社となって以来、初の護衛艦起工式となりました。

今後は、船体ブロックの溶接工事が続き、令和5年11月には進水式を迎え、令和7年3月末に完工後、海上自衛隊へ引き渡される予定です。

令和4年8月8日、愛媛県今治市に所在する矢野造船株式会社において、**令和3年度建造計画支援船の「交通船（25トン型）」の起工式※**がとり行われました。式典では、矢野造船株式会社の矢野均社長他、玉野防衛事務所長赤尾1佐ほか、関係者が出席しました。



起工式（奥から、矢野社長、赤尾1佐、田中2佐、ロジスティクス(株)代表取締役 狩野氏）

写真は呉に配備の同型の交通船(25トン型)
(出典:海上自衛隊 支援船写真集(令和4年度版))

矢野造船株式会社は、昭和28年に船舶の建造と修理を生業として創業以来、内航船建造のエキスパートとして、現在までに延べ200隻の建造実績を誇る造船所です。

防衛省船舶の建造は今回が初めてとなりますが、矢野社長以下一丸となり、交通船（25トン型）の建造に取り組んでいます。



今後、船体工事が開始され、令和5年1月に進水式が行われた後、各種試験を行い同年3月には海上自衛隊へ引き渡される予定です。



YT16(えい船)進水式

令和4年8月30日、愛媛県八幡浜市に所在する「(株)栗之浦ドック」においてYT16(えい船)(約260トン型)の進水式が行われました。YT(えい船)とは、一般的にタグボートといわれる船であり、主に大型船舶の出入港を支援します。

式典には、赤尾玉野防衛事務所長他事務所員2名と栗之浦ドックの関係者が出席しました。



進水したYT16

今回進水したYT16は、昨年度に建造されたYT15(えい船)に引き続き、(株)栗之浦ドックにおける2隻目の進水となります。各種検査及び海上試験を行い、令和4年10月26日、海上自衛隊大湊警備隊へ引き渡されました。



宮司による祈祷の様子

さらに10月から、(株)栗之浦ドックでは、3隻目となるYT17(えい船)の建造が開始されています。



令和4年度 在日米軍従業員永年勤続者表彰



監督者から表彰状を手交された被表彰者(20年勤続者)



監督者から表彰状を手交された被表彰者(30年勤続者)

中国四国防衛局管内に所在する在日米軍基地において長年にわたり勤務をされ、それぞれ重要な職務に精励された151名(呉地区27名、岩国地区124名)の方々が、この度、在日米軍従業員永年勤続者として表彰されました。

今回表彰対象となった従業員の皆様方には、各軍の現場の監督者等から、日頃の感謝の気持ちとともに、長年にわたる功績をたたえ、表彰状と記念品の授与が行われました。

中国四国防衛局管内では、米陸軍第10支援群弾薬廠(呉市ほか)及び米海兵隊岩国航空基地(岩国市)において約2000名の在日米軍従業員の方々が、日々、在日米軍施設の円滑な運営に寄与されています。

今回、永年勤続者表彰を受けられた方々には、日頃、日米の架け橋として職務に精励されていることに敬意を表しますとともに、今後も、より一層御活躍いただくことを祈念します。



中国四国防衛局長 感謝状贈呈



前列中央(左) 松原 委員

令和4年11月8日、奈義町日本原演習場対策委員会委員の **松原 三郎 氏** に対し、局長感謝状を贈呈しました。

同氏は、平成23年2月に奈義町日本原演習場対策委員会の委員に就任し、平成26年2月には同委員会の委員長に就任した後、令和4年2月までの約8年の長きにわたり委員長を務め、現在も同委員会の委員として、陸上自衛隊日本原演習場の安定的な使用のため、自衛隊に対する協力体制の環境作りに努めて頂いています。

令和4年11月8日、前中国四国防衛施設地方審議会委員(会長代理)の **神津 直 氏** に対し、局長感謝状を贈呈しました。

同氏は、平成24年5月から令和4年10月までの間、中国四国防衛施設地方審議会委員として、また令和2年4月以降は、同審議会の会長代理として、長年にわたり、防衛施設に関する業務に深い理解を示され、同審議会において適切な意見を行うことにより、当局が行う防衛行政の円滑な実施に多大な貢献をされたところです。



前列中央(左) 神津 前委員

今般の感謝状贈呈は、両氏のこれまでのご功勞に対し、当局としての感謝を表したものです。



令和4年度 中国四国防衛局永年勤続者表彰



令和4年11月1日、中国四国防衛局永年勤続者表彰式が実施されました。

同式典では、防衛省において長年勤務し、それぞれ重要な職務に精励された職員6名の方々に対して、今給黎局長から日頃の感謝の気持ちを伝達するとともに、長年にわたる功績を称え、防衛大臣名の表彰状と記念品の授与が行われました。



中国四国防衛局による広報活動の紹介(自衛隊施設での記念行事)

中国四国防衛局では、当局管内の自衛隊創立記念行事等において、防衛政策や自衛隊の活動をより広く国民の皆様を紹介していくため、広報ブースを設置しています。

広報ブースでは、令和4年版防衛白書のパネル展示を行うほか、防衛白書ダイジェスト版、広報誌、採用パンフレット等を、来場した方々に配布しています。

今後とも、記念行事等において広報ブースを設置してまいりますので、基地駐屯地にご来場の際はお気軽にお立ち寄りください。

海上自衛隊 徳島航空基地開隊64周年記念行事の際の広報ブース(10月1日)



陸上自衛隊 日本原駐屯地57周年記念行事の際の広報ブース(11月27日)



今回、上記の広報ブースでは、防衛省入省1年目の職員も対応しました。

当日対応した入省1年目の職員からは、「広報の現場に初めて立つことは、とてもドキドキしましたが、来場者の方々との対話を通じて、防衛省職員としての認識を新たにしました。」との感想がありました。

今後とも多くの方々に対し、防衛行政や職員採用などの御質問等に対応しても丁寧に対応してまいります。



揃いの防衛省防災服を着用し広報活動を行いました



米海兵隊岩国航空基地の紹介 (in Autumn)

米海兵隊岩国航空基地では、年間を通じ数多くの米軍の式典、日米交流等が行われています。その中で、今秋に行われた幾つかのイベントを紹介します。

11月3日には、同基地内で米海兵隊創立247周年記念式典「Uniform Pageant」が基地司令部前広場で行われました。基地隊員約250名が参列した同式典では、1775年11月に創立された米海兵隊の歴史を振り返り、現在までの制服18種類を着た隊員が、時代を紹介するナレーションとともに登場し、海兵隊の伝統を紹介しました。

Uniform Pageant後は、米海兵隊創立を祝う特大のバースデーケーキが登場し、ラスノック岩国航空基地司令官がカットしたケーキは、最年長の隊員から最小年の隊員に手渡されました。

これには、海兵隊の伝統と誇りを継承する意味が込められています。



(中央)ラスノック司令官



下記は、翌11月4日に岩国基地内で行われた「米海兵隊創立247周年記念式典」の様態です。



ダンスパーティーの様子

10月28日には、基地内で米海兵隊、米海軍、海上自衛隊の隊員約80名による **日米交流運動会** が行われました。本交流は、岩国基地内で勤務する日米隊員の絆と親睦を深めることを目的に、海上自衛隊が企画し初開催されたものです。

当日は晴天の下、綱引き、障害物リレー、500㍓リレーなど、約8種目で競い合い、各隊員は慣れない種目にも果敢に挑み全力で取り組んでいました。

基地内で勤務する米軍人と自衛隊員による運動会は、迫力・気迫が溢れ、見ている側にとっても心強さを感じる日米交流でした。



10月30日には、岩国基地内の住宅地区において、**Halloween event** が行われ、基地関係者に加え、基地周辺の日本人親子など約1000人が参加しました。



日本国内でも定着してきたHalloweenですが、基地内では住宅を電飾で飾り付け、親子ともに仮装する本場の雰囲気を楽しんでいました。



(左) 岩国基地報道部長 (右) 防衛局報道官



中国四国防衛局 初任者現地研修(呉・江田島地区)

令和4年8月29日、海上自衛隊第1術科学校及び呉地方総監部において、令和4年度中国四国防衛局初任者現地研修（呉・江田島地区）を実施しました。

この研修は、令和4年度新規採用職員を対象に、自衛隊の部隊見学を通じて今後の業務の遂行に必要な基礎的知識を付与することを目的に、海上自衛隊第1術科学校及び呉地方総監部の協力を得て実施したものです。

今年度は、第1術科学校内の施設整備や呉地方隊に所属する艦艇等の見学を行いました。ここでは、研修に参加した職員の所感を抜粋して紹介します。



海上自衛隊第1術科学校表棧橋前



護岸改修工事及び表棧橋について説明を受ける研修生

○第1術科学校護岸工事・表棧橋

海上自衛隊は、海を基本とすることから、海に面した1術校の表棧橋が玄関ですが、明治以降、風雨にさらされて劣化していた石積み護岸を、平成30年から改修を実施し本年6月に全ての工事を完成させ、その威容を取り戻した状況でした。

石積み護岸から、コンクリート製の護岸に改修することにより、耐久性を向上させつつ、周囲の景観を損なわないよう配慮した工事の状況が伺えました。
(事業監理課 中平)

○幹部候補生学校建築工事

幹部候補生学校では、耐震基準を満たしておらず、倒壊の危険性が高いと診断された北側部分について、今まさに建て替え工事が進行している最中でした。

現在使用中の南側の建物についても、赤レンガ造りの外観であったり、階段の手すり部に錨のマークが彫られていたり、様々な部分で旧海軍らしさを感じ取ることができました。

自衛隊の施設にはこういった歴史的に価値のある施設が多くあると思いますが、耐震基準等安全性を確保しつつ、うまく今後の世代に残していければよいと感じました。
(土木課 野田)



幹部候補生学校において説明を受ける研修生

○呉基地潜水艦見学（けんりゅう）

音を吸収する素材で潜水艦の表面が覆われていることや、排気ガスを海底の斜め下に向かって放出し、海上の敵から発見されにくくする仕組みなどを学びました。

また、潜水艦内で仕事をする大変さや、秘密裏の業務が多く家族にスケジュールを伝えられないもどかしさを伺いました。現場で働く方のお話から、日常生活ではイメージしづらい、潜水艦で働くということを考えることができ、貴重な経験でした。

（総務課 高田）



潜水艦を見学中の研修生



練習艦しまかぜを見学中の研修生

○呉基地艦艇見学（練習艦しまかぜ）

実物を間近で見ながら説明を受けることで、より一層興味を持ちながら聞くことができました。

護衛艦の戦い方、艦艇に搭載されている装備品などの説明を受け、食料・燃料など艦の補給の際に港に戻らず洋上で補給を行うことや、補給の際に使用される蛇管がNATO加盟国で統一されているなど知ることができ、とても勉強になりました。

（総務課 森田）

今回の研修では、海上自衛隊が実際に使用する施設や艦艇の見学を通じ、中国四国防衛局の実施する施設整備や海上自衛隊の装備及び運用についての見識を深めました。

今後もより多くの実体験の機会を設け、自衛隊の運用を支えていく防衛省職員の育成に努めてまいります。



潜水艦の甲板上で説明を受ける研修生



練習艦しまかぜの装備について説明を受ける研修生



中国四国防衛局 初任者等現地研修(岩国地区)

令和4年9月8日、米海兵隊岩国航空基地、艦艇装備研究所岩国海洋環境試験評価サテライト及び愛宕スポーツコンプレックスにおいて、令和4年度中国四国防衛局初任者等現地研修(岩国地区)を実施しました。

この研修は、令和4年度及び令和3年度新規採用職員を対象に、米軍施設・区域や防衛装備庁の機関の見学を通じて、今後の業務の遂行に必要な基礎的知識を付与することを目的に実施したものです。



愛宕スポーツコンプレックスカルチャーセンター前

以下、研修に参加した職員の所感を抜粋して紹介します。



米海兵隊岩国航空基地において説明を受ける研修生

○岩国飛行場(米海兵隊岩国航空基地)

岩国飛行場が滑走路と港湾施設を併せ持つ地域唯一の統合機能がある基地であることや岩国飛行場が担う役割等について説明を受けました。

近年緊張が高まっている、アジア太平洋地域の安全保障環境の安定に大きく寄与する岩国飛行場の円滑な運用や周辺自治体の理解を得ていくことの重要性を改めて認識しました。

(防音対策課 東野)

○艦艇装備研究所岩国海洋環境試験評価サテライト

実際のサテライト施設の見学にあたっては、施設規模の大きさに驚くばかりでした。屋内でこの規模の施設だからこそできること(例えば、仮想空間内に様々な環境をセットし、その中での動きを研究するなど)に水中無人機の研究開発の今を見ました。

また、水中ロボットフェスの開催など、今後の人財を育成する場所にもなっていると感じました。

(地方調整課 清水)



岩国海洋環境試験評価サテライト長による概況説明

○愛宕スポーツコンプレックス

私は絆スタジアムを外からしか見たことがなかったので今回、中にも入れて他の施設も見ることができて良かったです。

スタジアムの座席の間隔が少し広かったり、トイレのドアの下が広めに開いていたりしており、アメリカを感じることができました。施設の予約が埋まっていることや朝からランニングをする方が多くいると知り、地域の方々に愛されているんだなと実感しました。

(防音対策課 大石)



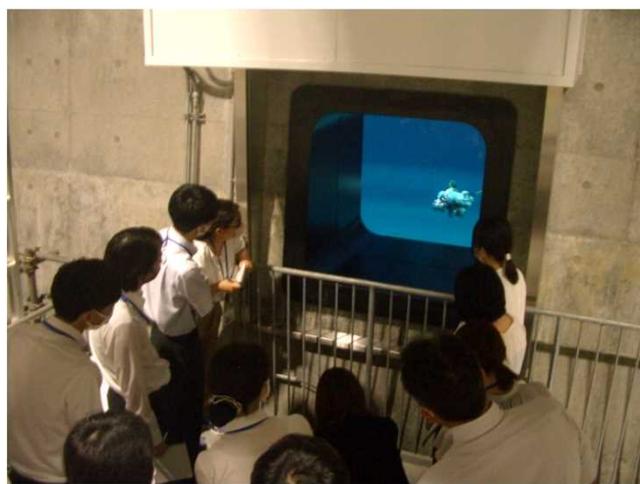
野球場について施設担当者から説明を受ける研修生

今回の研修では、米軍施設・区域や防衛装備庁の機関の施設見学を通じ、それぞれの施設の概要及び中国四国防衛局との関係性についての見識を深めました。

職員の育成のため、今後もより多くの実体験の機会を設けまいります。



大型水槽について説明を受ける研修生



水槽の覗き窓を見学する研修生



陸上競技場を見学する研修生



カルチャーセンター内の和室を見学する研修生



広島大学教授による局職員への講義



会場の様子
(9月5日、広島合同庁舎内共用会議室)

中国四国防衛局は、9月5日、広島大学法学部長の永山博之教授を招き、同局職員向けに「有事におけるサイバー次元の役割再考～サイバー次元は何を変えることができるのか」と題した講義を頂くとともに、ディスカッションを通じた局職員参加型の研修を行いました。

本研修は、新人研修の一環として、1、2年目採用職員向けに企画したものでしたが、局内に聴講希望者を募ったところ50人を超える参加者があり、対象者を拡大して開催しました。

まずは講演に先立ち、同局防衛補佐官の尾崎立哉一等海佐から、サイバー次元の役割をめぐって平時から有事における情報戦の諸活動としての役割や、サイバー攻撃に対する自衛隊の守備範囲などについて説明がありました。



中国四国防衛局
防衛補佐官 尾崎一佐

続いて、永山教授が講演し、サイバー攻撃の歴史に触れたのち、「サイバー次元の戦いは多領域に拡大しており、現在の焦点のひとつは認知領域の戦い」、「おはなし（ナラティブ）を操作できれば人の考えを変えられる」といった背景から、「中枢部をいきなり攻撃することは困難でも手薄な周辺部から攻撃できるため、オープンな西側社会は言論の制限がやりにくいことからこの種の攻撃に弱い。」として、「そもそも古くから使われてきた手法ではあるもののネットの普及と浸透により非常に大きな力を獲得したため、戦時と平時の区別はなくなった」などの説明がありました。



広島大学法学部長
永山博之教授



これらを踏まえ、同局の深和総務部長から令和4年「防衛白書」におけるサイバー分野の概要を説明したのち、永山教授、尾崎一佐、深和総務部長の3人によるパネルディスカッション形式の討論が行われました。討論では、内容に応じて会場の参加者に質問を振るなどしたところ、若手をはじめ熱心な質問が複数の職員からあり、これに対して永山教授や尾崎一佐が丁寧かつ真摯に答えることで、今回のテーマに対する理解の一助となりました。

終了後、参加者からは「単語としてサイバーセキュリティーの話を知っていたものの身近なところに脅威があることに改めて気づいた」、「サイバープロパガンダに関心を持つようになり我が国の安全保障を考える上で不断に勉強を続ける必要性を感じた」、「サイバー空間では有事と平時の区別がつかず専守防衛が適用されるのであろうか」、「パネルディスカッション方式による参加型の講義は理解が深まりやすく今後も企画して欲しい」といった声が聞かれました。

このような声を永山教授に伝えたところ、「会場から複数の質問もあって意義深いものだった。職員の方々が自分の意見をぶつける練習の場となるよう機会があれば、またお話しさせてください。」といったコメントがありました。

同局では、今後も安全保障分野や中国四国地域特有の分野に係るアカデミア領域等の方を招いた講義の場を設け、唯一の答えがない課題等について共に考えるを通じ、防衛施設と周辺の方々とを繋ぐ役割を担う防衛局の業務に長けた職員の育成に努めることとしております。



玉野防衛事務所日記（新来島どっく感謝祭を訪れて）

令和4年11月5日、本年2隻の海上自衛隊油槽船YOTO1/02を納入した(株)新来島どっく（愛媛県今治市）で開催された「新来島感謝祭」に玉野防衛事務所長が訪れました。当日は通常は立ち入れない造船所内部や新造船を一目見学しようと、3年ぶりの開催ということもあり、従業員の家族や地元住民などが多く訪れていました。



入り口の様子



高所作業車乗車体験

「新来島感謝祭」では、子どもたちが作業体験できるスペースや現在建造中の新造船ケミカルタンカー（約18,200トン）を見学できました。このケミカルタンカーは化学製品を26,000トン運搬できるとあって、油槽船YOTとサイズは異なりますが内部の構造は酷似しています。居住区は個室となっていて長期間過ごすには快適な環境で、見学者は「ホテルのようだ」と関心を深めていました。子どもたちは、細かい数字が表示された船舶の専用機器について従業員から説明を受け、興味津々のようでした。

感謝祭での造船所・新造船見学は、造船所従業員の子どもたちにとっては父親の仕事に対して理解や興味を持つ良い機会になっていたと感じました。

このような造船所で海上自衛隊初の油槽船が建造されたことを嬉しく思うとともに、海上自衛隊艦船を建造できる基盤造船所の1つとして、今後も益々発展していくことに期待します。



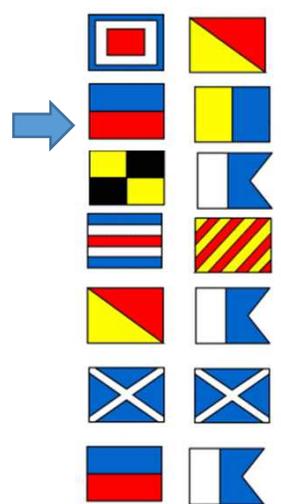
玉野防衛事務所日記（訓練支援艦「てんりゅう」体験航海に参加）

令和4年11月12日、玉野防衛事務所長は、宇野港で実施された、岡山地方協力本部主催の「訓練支援艦「てんりゅう」の体験航海」に参加しました。

訓練支援艦とは主に対空射撃訓練支援用に無人標的機を管制する船で、現在「くろべ」と「てんりゅう」の2隻が就役中です。

当日は天候も良く、体験航海には、岡山県知事、玉野市長をはじめ、各自治体、各協力団体の方々や当日申込をした方が乗艦し、概ね2時間の航海が行われました。

体験航海中は76mm速射砲の操法展示、ラッパの吹奏が行われ、乗船された方々は砲の動きの機敏さやラッパの音色に感嘆の声をあげていました。



係留中の信号旗（読めますか？答えは下に）

今回、乗船された方々と話をする機会があり、多くの方々が今の日本をとりまく情勢の下、自衛隊の活動に対する期待、自衛官や装備品に対する関心を持っておられることを実感いたしました。今後もこのような交流の場を活かし、国民の皆様と意思疎通を図っていきたいと思います。



中国四国防衛局 高松防衛事務所の紹介

高松防衛事務所は、JR高松駅より北側約100m先に所在する高松サポート合同庁舎南館内にあり、香川県、徳島県、愛媛県、高知県を管轄しています。

主要な業務として、自衛隊の施設の取得・管理、防衛施設の設置・運用に伴って生じる障害の防止・軽減、自衛隊の行為による被害又は損害の補償、建設工事の実施等に係る連絡、交渉、調査及び資料の収集、並びに防衛政策全般についての地方公共団体及び地域住民の理解及び協力を確保するための連絡調整業務を行っています。

主な防衛施設

香川県：善通寺駐屯地（善通寺市）、国分台演習場（高松市・坂出市）
徳島県：徳島駐屯地（阿南市）、徳島航空基地（松茂町）、小松島航空基地（小松島市）
愛媛県：松山駐屯地・小野演習場（松山市・東温市）
高知県：高知駐屯地・高知演習場（香南市）、土佐清水分屯基地（土佐清水市）

四国の名所

香川県：金刀比羅宮、栗林公園、小豆島
徳島県：鳴門の渦潮、霊山寺、剣山
愛媛県：道後温泉、松山城、しまなみ海道
高知県：高知城、桂浜、四万十川



栗林公園のライトアップ

四国の名物

香川県：讃岐うどん、骨付鶏、オリーブ
徳島県：徳島ラーメン、鳴門金時、すだち
愛媛県：鯛めし、じゃこ天、いよかん
高知県：鯉のたたき、鍋焼ラーメン、ゆず



讃岐うどん



鯉のたたき



中国四国防衛局 職員日記（高松防衛事務所）



（高松防衛事務所 笹岡 久義）

高松防衛事務所の朝は、地方新聞紙を読むことから始まります。防衛省・自衛隊の諸活動に関する記事等をクリッピングします。記事を読み込んでいては時間が足りなくなるので頭を検索モードに切り替えてナナメ読み。

作業を終え、改めて記事を読み、四国4県にお住まいの方々から防衛省・自衛隊をどのように感じているかに思いを馳せつつ、日々の業務に向き合っています。

人生折り返し地点を過ぎたこともあり、日々、空き時間のWalking等で体力維持に努め、休日にはスマートフォンアプリで将棋等のオンライン対戦を楽しみ、心身のリフレッシュを図っています。いつかはドローンの操縦に挑戦して、自身が大空を飛んでいるような、海中を泳いでいるような気分になれる動画を撮ってみたいなどと思っています。

